

# 多種多様なサービスが出現する環境の構築を目指して

～NGNの現状とオープン化に対する要望～

2011年6月21日

社団法人 テレコムサービス協会

# NGNのオープン化に対する要望

## ● NGNの特徴である「アプリケーションと網とのインタフェース」

- ・ NGNは従来のネットワークとは異なり、アプリケーションがネットワークの機能を使いやすくするためのオープンなインタフェースが考えられており、NTT東西のフレッツ光ネクストでは「**SNI: Application Server Network Interface**」が規定されている。

## ● しかし、SNIとして提供されるインタフェースが増えていない・・・

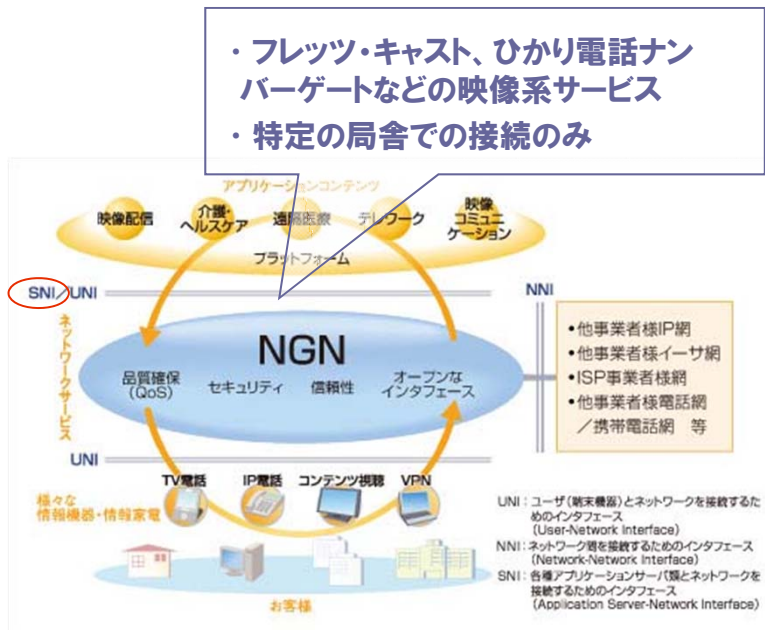
- ・ NGNが持つ様々な機能（セッション制御機能、帯域制御機能、認証機能、課金機能等）を外部から利用できるようなインタフェースがSNIとして提供されることを期待したが・・・
- ・ 現在提供されているSNIは「**フレッツ・キャスト**」のみで、しかも**大規模利用しか想定されていない**サービスメニューにとどまっており、小規模なサービスから開始しようとする用途には全く適さない。

## ● NGN上に多種多様なアプリケーションサービスが出現するために

- ・ NGNは従来にはない様々な機能を持ち、今後の社会インフラとしての発展を大いに期待しているが、現状では新たなサービスがほとんど出現していない。（新たな使い方は、TV電話機能を利用したTV会議システムぐらい・・・）
- ・ 現状のNTT東西のフレッツ光ネクストは、NGNの最大の特徴であるべき「アプリケーションサービスが使いやすいネットワーク」とはなっていないことが最大の原因である。
- ・ NTT東西は、**NGNの持つ様々な機能を利用できるようなインタフェースをオープン化し、かつ小規模なサービスから**でも簡単に始められるような使い易い料金体系と条件で提供すべきである。
- ・ 新たなサービスメニューを提供するNTT東西自身の努力にも期待するが、本質的には、**複数の通信キャリアがNGNを構築し、様々な機能が上位レイヤへ提供されるような競争環境を整備**することが重要であると考える。
- ・ 適切な競争環境が整備されれば多くのサービス提供者がNGN上に集まり、それぞれが競争しながら多種多様なアプリケーションサービスが提供される環境が実現する。その結果、利用者の利便性が向上するとともに、情報通信サービスの国際競争力強化にも貢献し、NGN自身もさらに発展していくことを期待している。

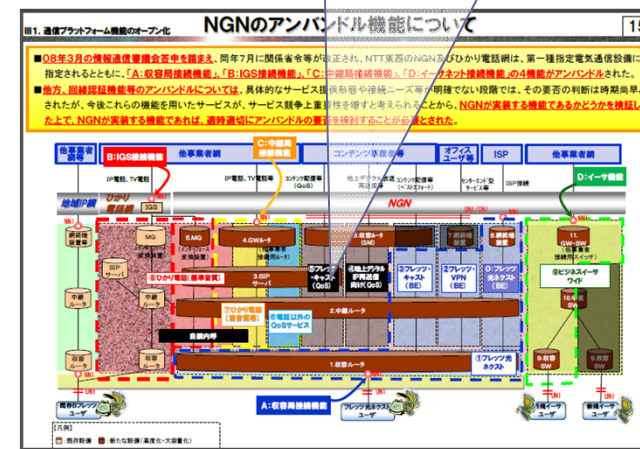
# NGNを取り巻くオープン化の現状

- NGN上にプラットフォームを構築するためのインタフェースに期待したが・・・
  - 現状では限定的なサービスメニューのみ
  - NGN機能のアンバンドリングも不十分



NTT東日本のWebページより  
<http://www.ntt-east.co.jp/ngn/about/index.html>

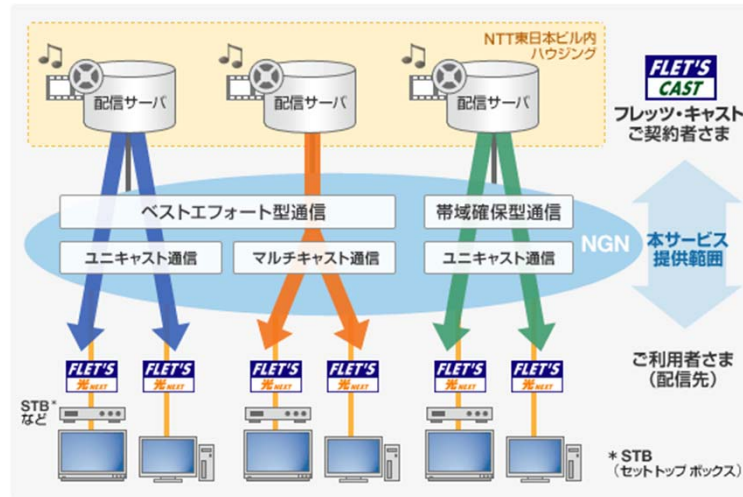
- ・ 認証、QoS等のNGNの機能をアンバンドリングで開放すべき、との要求あり
- ・ 現状ではPSTNのGC接続に相当する接続は開放されず



総務省資料 ( 通信プラットフォーム市場・コンテンツ配信市場への参入促進のための公正競争環境の整備等について) より  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000019500.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000019500.pdf)

# NGNにおけるSNIの実体

## ● 唯一、SNIが定義されているサービス： フレッツ・キャスト



NTT東日本のWebページより  
[http://flets.com/cast/s\\_outline.html](http://flets.com/cast/s_outline.html)

→ 配信サーバをNGNに接続し、映画/音楽などのコンテンツを、IPv6通信により「フレッツ光ネクスト」ユーザに配信するCSP向けのサービス

→ ベストエフォート型では、ユニキャストに加えてマルチキャストも利用可 (別途料金が必要)

### ● ベストエフォート型:

80万円/月 (100M、シングル) ~ 560万円/月 (1G、デュアル)

### ● 帯域保障型:

別途お問い合わせ

### ● 高額 of 価格設定

● NTT東西の局舎内接続 → 自社サイトまで別途回線料金が必要

● 接続できる局舎は、東日本/西日本それぞれ1カ所

→ 小規模なサービスから始められる環境にない

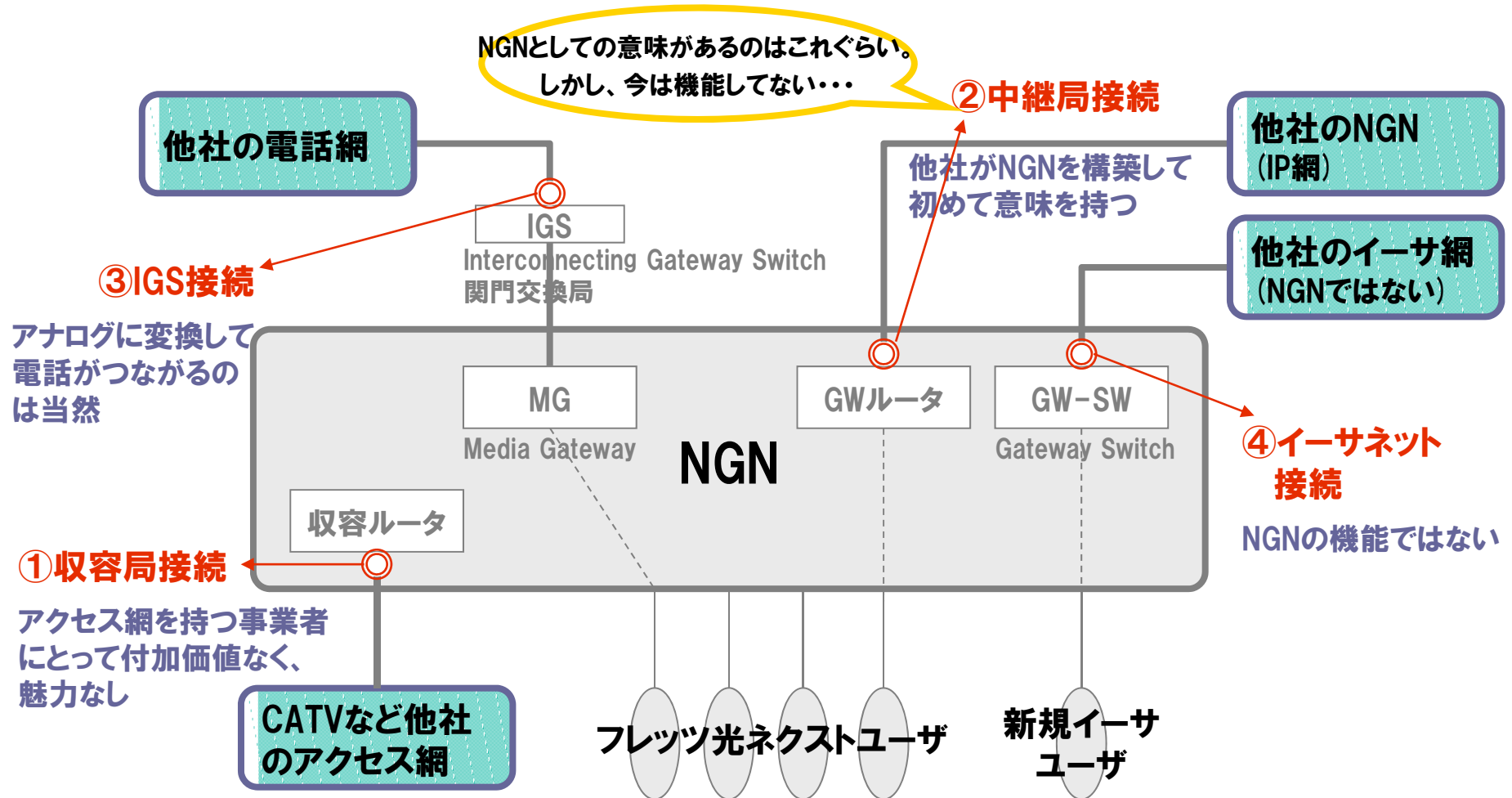
大規模になると・・・

→ 東西間が繋がらない

→ NTT東西が分かれている弊害

# NGNにおけるアンバンドリングの実体

- 事実上、NTT東西のNGNの機能がアンバンドルされていない  
→4つの接続機能が提供されているが、これでNGNがオープンであるとは言えない

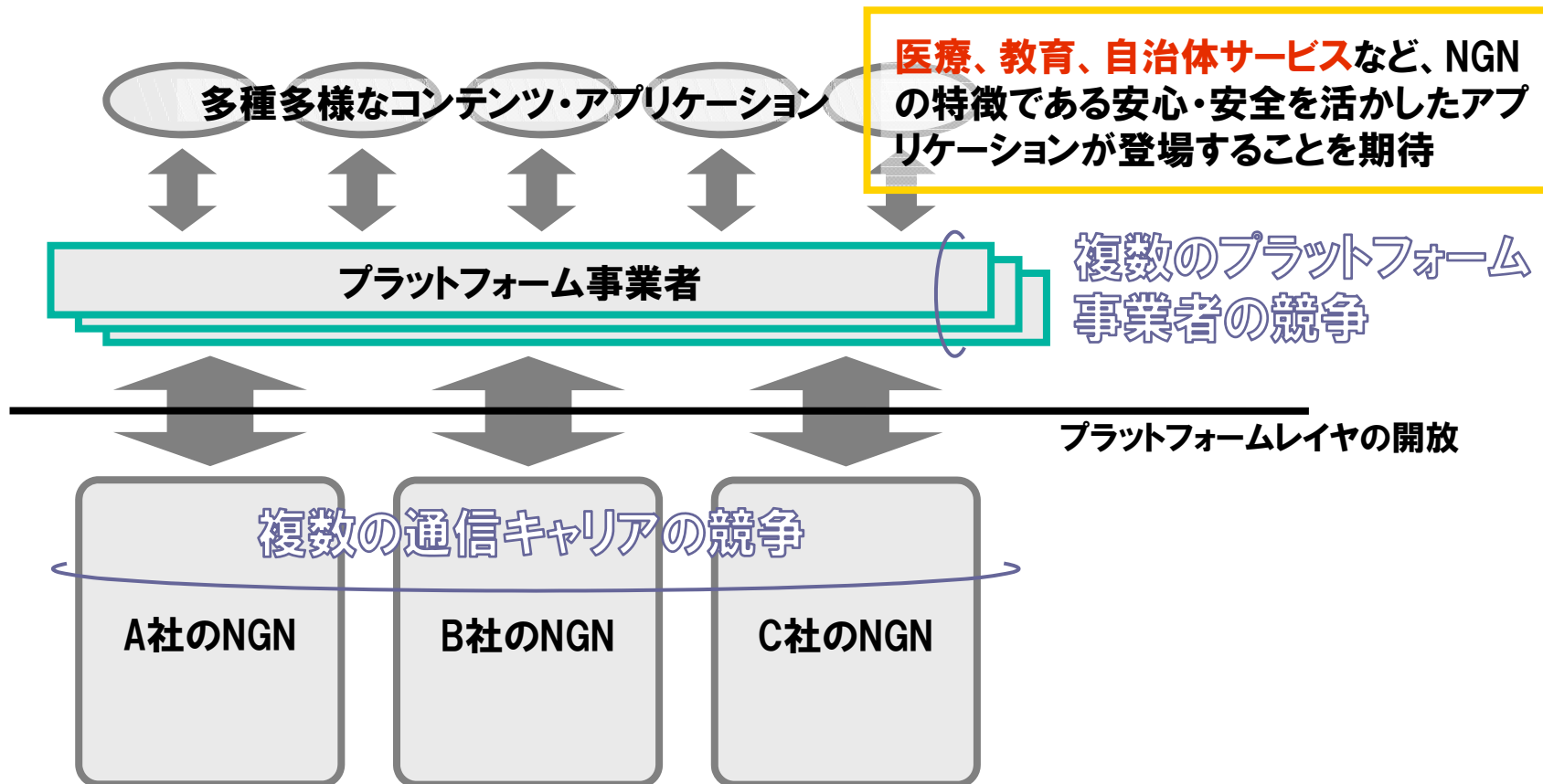


# プラットフォーム事業者から見た競争環境のあり方①

## ● 複数の通信キャリアがNGNを構築

→ 競争環境を通じてプラットフォーム事業者に提供するサービスが拡充

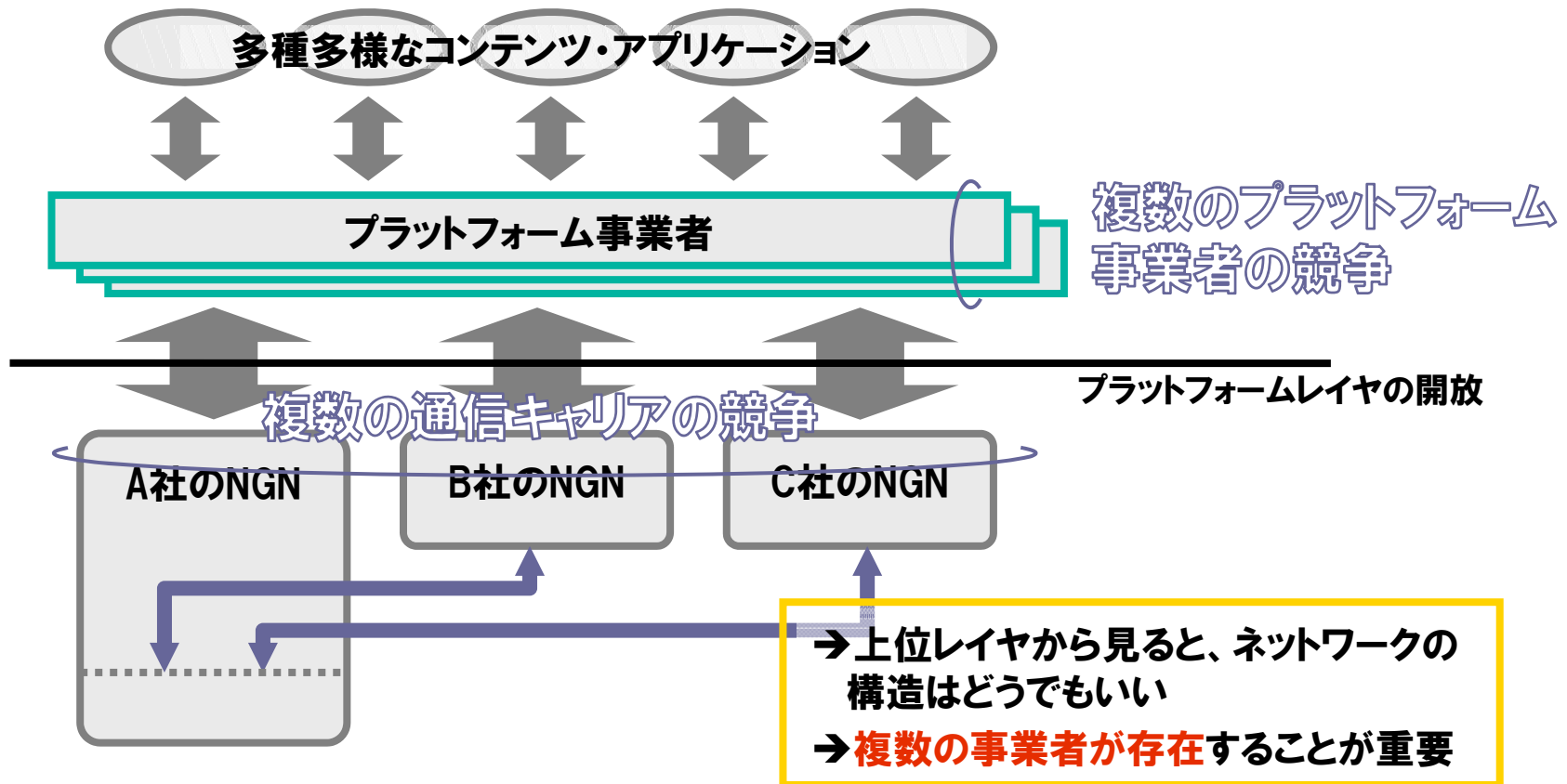
→ 様々な通信サービスが提供されることで、プラットフォーム事業者間にも競争が発生





## プラットフォーム事業者から見た競争環境のあり方②

- アクセス網などを共用し、複数の通信キャリアがNGNを構築
  - ボトルネック設備を持つ事業者が、他の通信キャリアに設備を開放
  - 複数の通信キャリアがプラットフォーム事業者にサービスを提供する競争環境

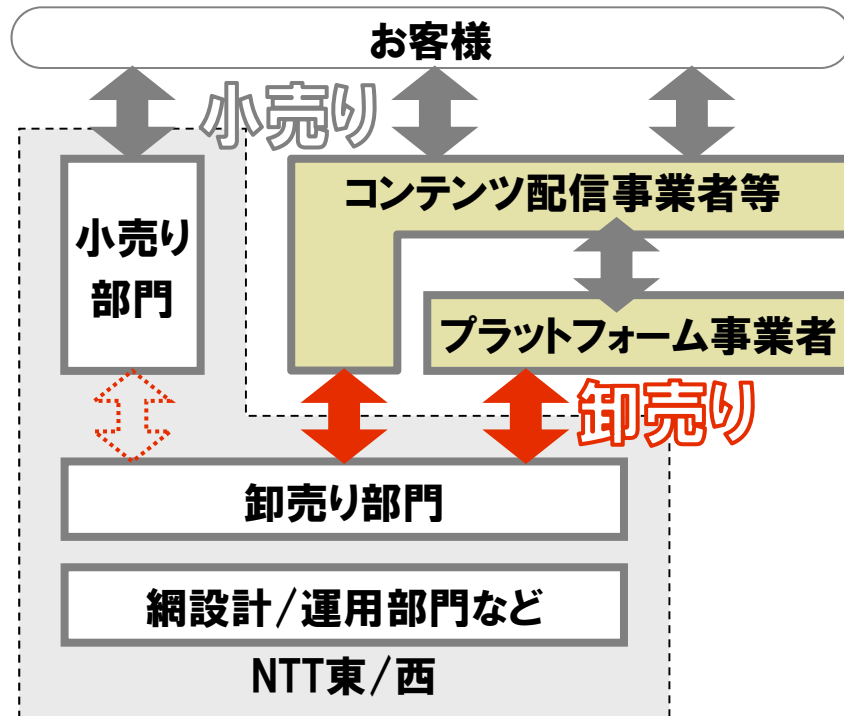


# プラットフォーム事業者から見た競争環境のあり方③

## ●NTT東西の「卸売り部門」と「小売り部門」を分離

→最初に立ち上がるのは、特定の業界向け、特定の企業向け、特定の地域向け、特定のコミュニティ向けの新たなサービス

→お客様にサービスを提供するプレイヤーを増やし、競争により市場を活性化



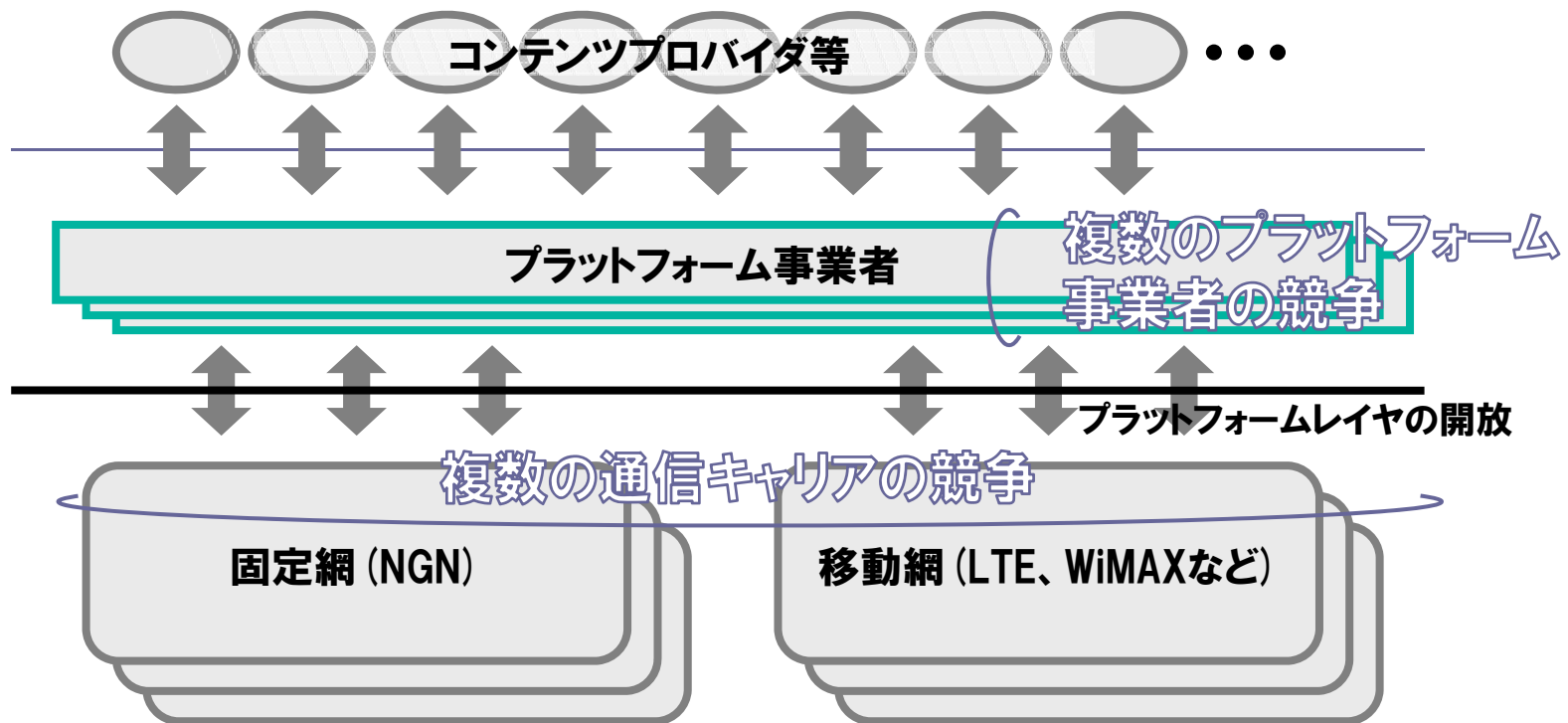
- 「卸売り部門」から見れば、販売チャネルが増えるのであるから基本的には歓迎されるはず
- 社内の「小売り部門」と他の事業者との間の公平性については検証する仕組みが必要

→B社、C社はすぐには出てこない  
→A社だけでも、お客様に対して**多くのサービス提供者が現れる**仕組みを!



# 競争環境整備の次のチャンスは、LTE登場による『FMC』

- NTT東西以外の他の事業者によるNGN構築はすぐには進まない・・・
  - 既に複数の事業者がLTEなどの次世代移動体網を構築中
- FMC実現には、固定網/移動網を包括するプラットフォームの構築がカギ



→プラットフォームレイヤを開放し、多くのプレイヤーによる健全な競争環境の構築を目指すべき

# 多種多様なサービスが出現する環境の構築へ

- **小規模から始められるアプリケーションインタフェースが必要**
  - 複数の通信キャリアの競争で様々なインタフェースの提供を!
  - それがダメなら、「卸し」のサービスを活用して多くの事業者が競争する環境へ!
  - さらに、複数のLTEが登場する時が市場を活性化させる好機!
- **オープン化に対する考え方の転換を!**
  - 「ニーズのあるところから」では何も始まらない
  - オープン化が可能なインタフェースは、まずオープン化を!

➡ 強制力を持ってNGNのオープン化とプラットフォームレイヤの開放を推進すべき

➡ **ブロードバンド普及をさらに促進させることで豊かな国民生活を実現し、さらに世界へ貢献!!**